

取扱説明書

モタロウ エアーダブルアクションサンダー

注文コード

吸塵式:57273746

非吸塵式:57273755

このたびは、エアーダブルアクションサンダーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。

1. 仕様

吸塵式
57273746

作動レバー

回転数
調整ねじ

PT1/4ホース
接続口

吸塵ホース取付口
および排気口

(共通)スパナ、オイル差し、PT1/4カブラー

非吸塵式
57273755

作動レバー

回転数
調整ねじ

PT1/4ホース
接続口

吸塵ホース取付口および排気口

パッド

吸塵ホース

吸塵袋

パッド

項目	値
使用空気圧力(MPa)：	0.62
空気消費量(L/min)：	340
無負荷回転数(min ⁻¹ [r.p.m])：	10000
パッドサイズ(φmm)	123
オービット径(φmm)：	5
空気接続口：	PT1/4
使用ホース径(φmm)：	6.5
全長(mm)：	160
全高(mm)：	94

付属品	吸塵式・57273746	非吸塵式・57273755
	ホース、吸塵袋、パッド(取付済)、 スパナ、オイル差し、PT1/4カブラー	パッド(取付済)、スパナ、オイル差し、 PT1/4カブラー

2. 安全にお使いいただくために

警告 この表示内容を見逃して誤った使い方をした場合は、死亡や重症などの重大な傷害に結びつく可能性があります。

注意 この表示内容を見逃して誤った使い方をした場合は人的傷害や製品の破損、その他の物的損害へつながる可能性があります。

3. ご使用方法

■使用前の注意

□作動環境 **警告**

- 使用前に点検を行ってください。主軸、ねじ山は定期的に点検し、パッドの取付状況や損耗を確認してください。
- 本製品は、研磨パッドを用いてワークの研磨作業のみに使用してください。
- 適切な空気圧で使用してください。使用中は0.62MPaにすることをおすすめします。指定空気圧以上で使用すると、性能は上がりますが摩損が早まり、製品の破損・事故の原因になります。圧力計や減圧弁等を併用し、必ず適切な空気圧で使用してください。
- 動力源は、エアーコンプレッサによる圧縮空気です。エアーコンプレッサ以外の動力源を使用すると爆発の危険があります。
- 安全性、最高性能、部品の最大耐久性を維持するために、使用ホース径に記載してあるエアーホースを使用してください。エアーホースはゴミの混入に注意し、取付けてください。確実に取付けないと、エアーホースが外れ、エアー噴出によりエアーホースが暴れる危険があります。

□作業環境 **警告**

- エアーツールの取付け・操作・点検修理、アタッチメントの取替え前、また、本製品の近くで作業するときは、本書をよく読み理解してください。
- 作業場所は整頓し、十分な日光が照明が当たるようにしてください。作業する台の上は何も置かないようにしてください。物があると事故を引き起こす可能性があります。
- 爆発の可能性があるエアーツールのエア供給に酸素や可燃性ガスを使用しないでください。火花で引火して火事や爆発を起こす危険性があります。
- 引火性液体、洗浄溶剤、流体エネルギー、保管ガスがあるなど、爆発の可能性がある環境では使用しないでください。

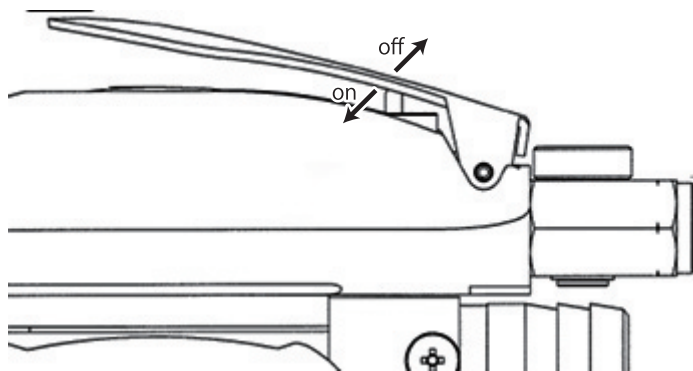
□作業時 **警告**

- 絶対に改造しないでください。改造は事故の原因になり、作業者への危険性も大きくなります。
- 用途以外に使用しないでください。事故の原因になります。
- 取付けの部品を外さないでください。取外しての使用は、事故の原因になります。
- 適切な作業服を着用し作業してください。可動部に手や布などを近づけないでください。
- 必要に応じて作業保護具（ヘルメット、耳栓、保護メガネ、マスク、手袋、安全靴）を着用し作業してください。作業位置が80dB(A)以上になる場合は、必ず耳栓を使用してください。
- ワークが飛び作業者が怪我するおそれがあるので、ワークが動かないように確実に固定してから作業してください。
- 作動レバーが停止位置になっていることを確認してください。
- 先端工具が外れて飛んでしまいケガをするおそれや、故障の原因になりますので、無負荷で動作をさせないでください。
- 作業中は反動や跳ね返りに備え、しっかり持ち安全な姿勢を保ってください。
- 高所作業では作業中に落下することが絶対にないように注意してください。
- 電気絶縁性はありません。感電のおそれがある場合は、絶対に使用しないでください。
- 異常や危険を感じた場合は、ただちにエアー供給を止め、使用を中止し点検や修理を行ってください。

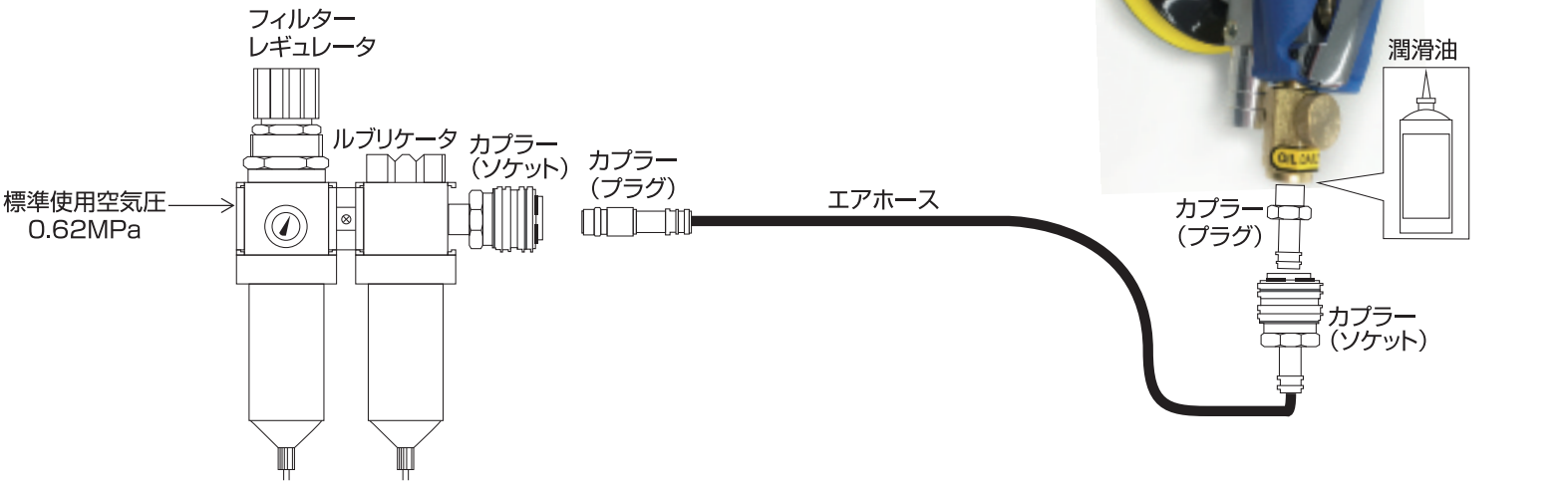
■使用方法の注意

□作業時 **注意**

- 使用する前に、エアー供給部が正しく接続されていることを確認してください。必ず連結部をソケットにはめ込んでからエアーツールを動作してください。
- 作業は十分注意をして行ってください。
- 使用中は目を離さないでください。
- 過負荷での無理な使用はエアーツールの破損や故障の原因になりますので、おやめください。
- ワークを軽く(70Nの力以下)押し付けながら作業してください。
- 作業関係者以外は触らせないでください。
- 投げたり落としたりしないように注意してください。特に高所作業での落下には注意してください。
- 停電した時には、本製品を作業台の上に置き、手をレバーから離してください。
- 狭いスペースで作業しないでください。作業しているときは、エアーツールとワークの間に手が挟まらないように注意してください。
- 長時間作業しないでください。また作業中、手、腕、肩、首など身体の一部に不快感や疲労を感じた場合は、姿勢を変えたり休憩してください。
- 切傷、火傷、振動によるケガを招くおそれがありますので、作業中に回転部に触らないでください。
- 使用によって床がオイルで滑りやすくなったりエアーラインや油圧ホースによるつまずきに注意してください。
- 排気を人に向けてないでください。
- エアーホースの跳ねに注意してください
- エアーホースの破損は事故の原因になりますので、丁寧に取扱ってください。
- 流量調整時は、必ず停止した状態で行ってください。



■使用方法 配管



⚠警告

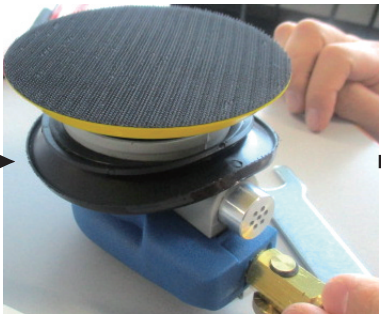
- 使用空気圧は、0.62MPaを超えないようにしてください。
指定空気圧以上で使用する場合、性能を上げますが摩損が早まり、製品の破損・事故の原因になります。
- 清浄な乾燥した圧縮空気を供給してください。
エアホース内のほこり、腐食性の粉じんおよび水などは、製品の破損・事故の原因になります。
- 適時に潤滑油を給油してください。給油を行わないと、錆や摩耗により故障・事故の原因になります。
清浄で潤滑されたエア供給を適正な圧力で行うために、エアフィルター、レギュレータ、ルブリケーター（FRL）は、上図のとおりに使用してください。
これらの装置の詳細は装置の製造業者にお問合せください。装置を使用しない時に注油するには、エア供給を停止し、エアーツールを押してエアーを減圧した後、エアーラインの接続を外して、吸気口に小さじ1杯（5mL）の潤滑油を注ぎます。その際、防錆剤を混ぜると効果的です。
- 使用目的に応じて流量を調整してください。
- しっかりと持ってください。その後、作動レバーを押すと作動します。
- 作業終了時、エアーコンプレッサーの空気圧をゼロにして、エアホースを外します。

■パッドの取替 ⚠注意

- 適切な研磨パッドを取付けてください。
- 必ず停止した状態で、また、接続ホースを外してから取替を行ってください。
- 下記方法で行ってください。
- 確実にパッドを取付けてください。しっかり取り付けないと、事故を引き起こす可能性があります。



準備：
付属スパナ使用



取付部が見えるように
黒いカバーを図のようにはずす



スパナを差し込みパッドを押しながら
中心部の取付ねじを反時計回りに回す

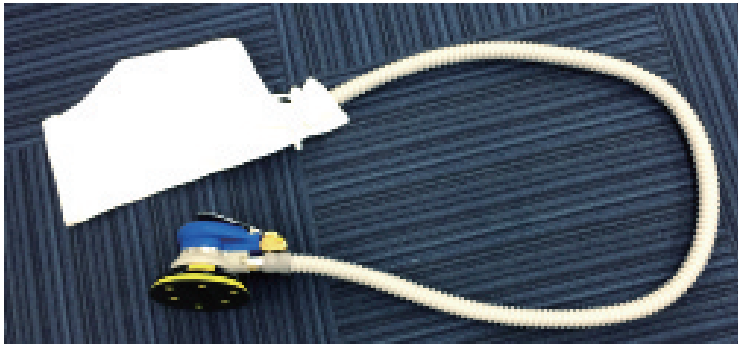


取外し完了

取付の場合：
取付ねじを時計回りに回す

■吸塵袋の取付 ⚠注意

- 必ず停止した状態で、接続ホースを外してから取替を行ってください。
- 下記方法で行ってください。
- 本体、ホースと吸塵袋を確実に取付けてください。



■給油方法 ⚠注意

- 作動レバーを押して、エアーツール本体の空気接続口よりオイルを10～15滴注入してください。
- エアホースを接続して、約3～5秒間空運転をしてオイルをエアーツール内になじませてください。
※オイルを入れ過ぎると、排気口からオイルが噴出します。本体をタオルで覆い、人や物から離して作動させてください。
※圧縮空気中には、水分が含まれています。そのため、長時間使用せず放置すると、本体内部に錆が発生し作動できなくなる場合がありますので
使用後は必ず給油を行ってください。

■保守・点検

- 使用しない時は、乾燥した場所で鍵をかけるか、子どもの手の届かない高い場所に保管してください。
- 使用しない時やアタッチメントの交換、エアーツールの修理を行う際は、必ずエア供給を停止してホースから空圧を抜き、エアーツールをエア供給元（エアホースなど）から取外してください。
- 製品寿命を長持ちさせるために使用後注油が必要です。エアモーターとベアリングは圧縮空気を使ってエアーツールを始動させます。
圧縮空気中にある水分はモーターに錆を生じさせます。モーターは毎日注油してください。保管する前にエアーツールに注油し、数秒作動させてください。
- 手入れを行わずに放置すると、内部に残留した水分が原因で錆が生じます。